

介護老人保健施設しおさい

症例概要 利用者:70代 女性 要介護3

病名:乳がん くも膜下出血 脳梗塞 症候性てんかん

利用サービス: 通所リハ

経過:通所リハビリテーションを利用して18年。当初は車椅子での移動。自信や意欲を持てるように声掛けやリハビリを継続し杖歩行からご主人の希望でもあった独歩を可能とすることで利用者さんご夫婦らしい生活を取り戻せた症例

内 容

しおさい通所リハビリテーションをご利用し18年が過ぎようとされています。

当時、家事全般を担っていた利用者さんが倒れられ、その代わりに家事全般を請け負う事となったご主人は、漁師で海での生活が長かったため、介護と家事の両立は大変な事でした。ご利用当初の利用者さんは思うように身体が動かさない事や、家事全般が出来なくなってしまったことで夫への負担が大きくなってしまったことに、ストレスや不安を抱え、全てにおいて意欲が低下していました。通所ではご本人に自信を持って輝きの一日を過ごしていただくためにお声掛けや企画を行ってきました。

当初リハビリ以外は座っていることも多く、現状維持が目標でしたが、「私もやれることはやっていきたい」と意欲的な発言が聞かれるようになりました。リハビリでの杖歩行訓練から開始し、その後介護職員と自主練習を行いました。疲労感もあり施設内歩行は2周程度でしたが、職員と練習に励み、10周出来るほど杖歩行が安定しました。

意欲が出た利用者さんは、これまでの1杖・2患・3健歩行から1杖患・2健の歩行練習をする事になりました。

ご本人のリハビリへの取り組み意欲が高まってきたのを機に、他の歩行練習をされている方にも目標を持ってもらうために、伊豆八十八カ所霊場巡りを例えた企画をスタートしました。次はどこまで巡ると目標が出来たことで、施設内10周程からのスタートでしたが、今では30周まで歩けるようになりました。そんな様子を見たご主人からは「手が使えるように杖なし歩行が出来たらな」との言葉が聞かれ、杖なしは困難に思われましたが、在宅医・ケアマネ・看護・リハビリとも連携し、利用者さんとの新たな挑戦が始まりました。開始より約2年経過した今では杖なし歩行で施設内を2周程歩けるようになり、ご家族のご希望を達成することが出来ました。

独歩が可能になった事で健側の手が空くことになり、脳梗塞発症から今までご主人がすべて行っていた家事も「食事の支度や後片づけ、掃除機までかけれるようになったよ。」など様々な事が出来る様になったとご本人から嬉しそうに話をしてくれます。

また、「2人で台所に立ち、今日の出来事を話しながら食事の支度をしたり片づけをするなんて、新婚当時を思い出すよ。」と話され、聞いていたご主人は照れくさそうにされていました。ご主人の家事負担の軽減に繋がったことや、独歩が可能となったことで、「これから、大好きな魚釣りに安心していく事ができ、2人で遊びにも出かけてみたいよ。家での生活をもっと楽しく満喫できそうだ。」と次の目標を話し、そのときの表情は自信に満ち溢れ、ご夫婦揃って満面の笑みとなっていました。

施設がクラスターになっている間、他施設のデイサービスを3回ほどご利用されたそうですが、「他では危ないから座っててすぐに車椅子を持ってこられた。しおさいでは安心していろんなことにチャレンジさせてくれるから、生きがいになる」と、再開初日からご利用下さいました。

長きに渡るご利用の中で生まれた信頼関係により、いくつになっても目標があり、達成することでやりがいを持つことや、それによりご主人のために台所に立てる事など当たり前だった日常を取り戻すことが出来、利用者さん・ご主人に新婚当時のような幸せな時間を提供することが出来た症例となりました。